

# 溪和会江別病院 令和5年度病院指標

## 2. 診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

### <定義>

- ・診療科別に患者数の多い疾患について、診断群分類コード別に示したものです。
- ・該当患者数が10名未満の場合は「-」にて表記しています。
- ・平均在院日数(自院):入院中の在院日数をDPCコード毎に集計し、その値を症例数で割った平均値です。
- ・平均在院日数(他院):厚生労働省より公表されている全国DPC対象病院の令和4年度における在院日数の平均値です。
- ・同一病名でも、重症度や治療内容によってDPCコードが異なって集計されます。

### 外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	47	4.64	4.55	2.13%	70.40	-
060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	30	5.73	6.87	0.00%	65.00	-
060035xx010x0x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1 なし 定義副傷病 なし	27	19.26	15.12	0.00%	74.30	-
060150xx99xxxx	虫垂炎 手術なし	21	7.05	8.02	0.00%	45.00	-
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術・処置1なし 手術・処置等2なし 定義副傷病 なし	15	10.07	8.95	0.00%	74.80	-

### <解説>

鼠径ヘルニアや胆嚢炎、大腸癌の手術治療が上位を占め、昨年度より増加傾向にあります。  
 最も多い鼠径ヘルニアは、患者さんの状態に合わせて、開腹だけでなく腹腔鏡による手術を行っています。  
 虫垂炎では、緊急手術以外にも抗生剤による保存的治療や、炎症を鎮めてから待機的に行うインターバル手術も行っていきます。

## 人工透析内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院 日数(自 院)	平均在院 日数(全 国)	転院率	平均年齢	患者用パス
110280xx03x0xx	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 内シャント血栓 除去術等 手術・処置等2 なし	16	2.00	4.51	0.00%	73.19	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—

## 〈解説〉

主に腎不全患者さんの透析治療を行い、人工透析に必要なシャントの作成、シャントの合併症にも対応しています。  
心不全や肺炎など他疾患を併発した場合、循環器内科や呼吸器内科など、他科と連携して診療を行っています。

脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 2あり 定義副傷病なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	43	14.30	15.57	20.93%	79.16	—
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	42	2.19	4.73	0.00%	68.05	—
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	24	10.63	7.19	4.17%	57.83	—
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	24	22.92	19.09	50.00%	74.33	—
010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	18	13.83	15.70	16.67%	74.83	—

<解説>

脳梗塞の入院患者さんが最も多く、次いでめまいの患者さんが多くなっています。頭部外傷や頭蓋内損傷・出血患者さんも多く、てんかん治療も対応しています。

手術治療のほか、薬物治療やリハビリ治療を行い当院の治療が落ち着いた後は、患者さんの状態にあわせ自宅や施設、療養型病院、回復期病院などへ退院できるよう連携を行っています。

整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	38	54.97	25.50	10.53%	84.26	—
160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。) 手術なし	24	30.75	19.34	4.17%	84.50	—
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 定義副傷病 なし	20	5.25	4.76	0.00%	72.75	—
—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—

<解説>

大腿骨骨折に対する人工骨頭挿入術や観血的手術が最も多く、様々な部位の骨折に対応しています。

大腿骨骨折や胸椎、腰椎の骨折での入院日数が昨年度に比べ大幅に減少しています。

当院の治療が落ち着いた後は、自宅や施設、療養型病院、回復期病院などへ退院できるよう連携を行っています。

消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	103	1.04	2.61	0.00%	71.41	—
060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	63	7.67	8.75	4.76%	78.90	—
060102xx99xxxx	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	39	6.67	7.58	0.00%	67.97	—
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術・処置1なし 手術・処置等2なし 定義副傷病 なし	26	7.19	8.95	0.00%	77.15	—
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置2なし	25	5.16	5.64	0.00%	50.80	—

<解説>

大腸ポリープ切除入院が多く、次いで胆管炎、結腸憩室炎の患者さんが上位を占め、入院日数が昨年度に比べ減少しています。低侵襲手術と呼ばれる身体の負担が少ない内視鏡手術を積極的に行っています。消化器内科での治療後に外科的治療が必要となった場合は、外科医と連携をとり迅速な治療が可能です。

循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
050050xx9910x0	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 1あり 手術・処置等2 なし 他の病院・診療所の病棟からの転院以外	42	2.50	3.05	7.14%	69.76	—
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1 なし、1,3あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	36	12.61	9.77	2.78%	85.36	—
050140xx99x01x	高血圧性疾患 手術なし 手術・処置2なし 定義副傷病あり	28	27.57	17.31	7.14%	82.89	—
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1 なし、1,2あり 手術・処置等2 なし	25	3.56	4.26	0.00%	71.56	—
050030xx97000x	急性心筋梗塞(続発性合併症を含む。)、再発性心筋梗塞 その他の手術あり 手術・処置1なし、1あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	25	14.08	11.54	0.00%	74.56	—

<解説>

狭心症、慢性虚血性心疾患で心臓カテーテル検査を受けられる患者さんが最も多く、次いで徐脈性不整脈に対するペースメーカー移植術や交換の患者さんが上位を占めています。

急性心不全、慢性心不全に対する治療に積極的に取り組んでおり、急性期治療を必要とする緊急のカテーテル手術にも対応しています。

呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数(自院)	平均在院日数(全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	36	24.94	20.60	16.67%	88.75	—
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2 なし	20	31.95	18.65	10.00%	79.80	—
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	19	12.16	13.59	31.58%	83.84	—
040040xx9909xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2あり	11	16.91	9.91	9.09%	73.91	—
—	—	—	—	—	—	—	—

<解説>

誤嚥性肺炎の患者さんが最も多く、次いで間質性肺炎となっています。

誤嚥性肺炎での入院日数が昨年度に比べ、大幅に減少しています。

肺癌では診断のために気管支内視鏡検査を行ったり、化学療法導入に向けての入院治療も行っています。